

「ありがとう(障がいの兄を持った弟の話)」高校(3年)

1、本時の指導

(1) ねらい

家族や周りの友達のことを思いやれるまで成長していった少年の姿を通して、私たちは日々の生活の中で支え合いながら生活していることを自覚するとともに、感謝生活をする大切さを学び、一日の中で「ありがとう」と言える項目を39個挙げる。その作業をヒントに、毎日の生活の中で感謝の習慣を身に付けていくことをねらいとする。

(2) 指導要領に基づく道徳の内容

2-(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

(3) 展開

学習活動と主な発問	教師の支援
<p>導入</p> <p>品性とは何だろう？</p> <p>品性を高くしていくにはどうすればいいのだろうか？</p> <p>品性を高めるための一つの方法として、感謝を習慣化していこう。</p>	<p>品性＝心の癖、毎日の習慣が癖となる。感謝の心を育てることは品性を高める一つの方法であることを、簡単に説明する。</p>
<p>展開1</p> <p>鈴木健二氏の『ありがとう物語』から、知的障がいのある兄を持った弟の話を、教師から語って聞かせる。キーワードだけ板書し、生徒はノートにメモをするよう指示をする。</p>	
<p>展開2</p> <p>作業⇒39の欄のあるプリントを配布して、「昨日の今の時間から、今の時間までで、ありがとうと言える項目を、39個書こう」と言って、書かせる。</p>	<p>昨日のこの時間は何の時間だったか、昼の食事のメニューは何だったかなど、思い出しやすいよう導く。</p>
<p>展開3</p> <p>書いた内容を生徒に聞きながら、以下のように分類する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人から何かをもらったり、してもらったこと 2、人の名前や自然の物。 3、生きていること。健康なこと。気づかせてくれたこと 4、嫌なこと。腹の立つこと(困難や災難) <p>感謝のレベル</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誰かに何かをしてもらった時に感謝する ② 当たり前と思っている事柄に感謝する ③ 自分に降りかかる困難や災難に感謝する 	<p>ほとんどが、友達から何かしてもらったことが多いが、自然や生きていること、健康や身体のことにも気づきが行くようにする。</p> <p>「嫌なこと」を書いた卒業生のプリントを紹介して、日々の生活の中では嫌なことが当たり前であり、それに感謝してみようことを考えさせる。</p>
<p>まとめ</p> <p>「全てのことに感謝ができるようになると、逆境にも強い人になれるでしょう。そのために、一日に一度、寝る前に一日の感謝の項目を挙げてみましょう。そうすることによって感謝が習慣づけられ、次第に心豊かな人生になっていくのではないのでしょうか」</p>	<p>感謝生活が豊かな人生を作るということを、考えるきっかけとする。</p>

2、参考資料

出典は鈴木健二著『ありがとう物語』（モラロジー研究所）

もう今から10何年も前の話です。東京にお父さんとお母さん、男の子2人のごく普通のご家庭がありました。ただお兄ちゃんは知能障がいのある子だったのです。お兄ちゃんが6歳になり、弟が3歳になったある日、二人で遊んでいた時、突然弟が「お兄ちゃんなんてバカじゃないか」と言ったのです。それを聞いていたお母さんは内心、それだけは言ってほしくなかった言葉だと思いました。お母さんは弟を叱ろうか、叱るまいかしばらく悩みました。しかし3歳の子どもに言って聞かせても理解できるものではないと思い、しばらく様子を見ようと思いました。その代わり、その日からお母さんは弟がお兄ちゃんに話した「バカ」とか「のろまだ」とかの言葉を毎日、日記につけることにしました。くる日もくる日も「バカ」とか「のろま」などの言葉が書かれていきました。そうしているうちに7月7日七夕の日に、近所のお兄ちゃんの友達が遊びに来てくれました。お兄ちゃんは友達に来てくれたのは初めてだったので、うれしかったのです。うれしさのあまり、一人一人をぶちはじめたのです。お兄ちゃんにとってはそれが喜びの表現だったのです。ぶたれる子たちも、その子がそういう子だったのでぶたれるままに「痛い」「痛い」と言うしかありません。そうしたら隣の部屋で一人で遊んでいた弟が飛んできて、「お兄ちゃんぶつなら僕をぶって。ぼくは痛いつて言わないから」と言ったのです。それを聞いていたお母さんは感激したのです。待ちに待った言葉が弟の口から出たのです。さてその日の日記に何と書いたでしょう。「ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう、・・・」と何ページにもわたって書き続けたのです。お母さんは普段から、できるだけ多くの人や物に感謝することを心掛け、「ありがとう」の項目を毎日書いていた方でした。

さてその後、弟が小学校に入学しました。入学式のその日、式後教室に入りました。お母さんも教室の後ろから見ます。ところが弟の席の隣の子がなんと右手の不自由な子だったのです。お母さんは「この子はなんて不幸な子なんでしょう」と嘆いたそうです。家ではお兄ちゃんが障害者、学校でも隣の子が障害者。その晩、両親は真剣に転校を考えたそうですが、しばらく様子を見てみようということになりました。

それから最初の体育の時間が来ました。その右手の不自由な子は一人で体操服に着替えたのですが、右手が不自由なため時間がかかって、グラウンドに出て来た時には体育の時間は半分以上が過ぎていました。次の体育の時間先生は、またあの子は遅れてくるかもしれないと思いながらグラウンドに出てみた。なんとその子もみんなと一緒にになって整列して並んで待っていました。どうしたのだろうと思いながら、その次の体育の時間の始まる前の休み時間にそっと教室を覗いてみました。そうすると例の弟がまず、自分の着替えをさっとやって、その後で右手不自由な子の着替えを手伝ってあげているのです。大人でも難しいその子の着替えを、まだ小学校1年生の子が一生懸命やってあげているのです。そして着替えが済んで2人並んでグラウンドに駆けていきました。先生は誉めてあげたいと思いましたが、今誉めると、「誉められたからやる」ということになってしまうかもしれないということで、何も言いませんでした。

それから3ヶ月経った7月7日の七夕の日がやってきました。その日は授業参観日で、お父さん、お母さんがたくさん教室の後ろに並んで先生の話聞いています。先生は「はい、今日は七夕の日です。紙を配りますからこの紙にお願い事を書きましょう」と言って紙を配りました。そしてそれを集めて一つずつ読み上げました。小学校1年生ですから、小遣いを増やして欲しいとか、自転車が欲しいなどと書いてありました。その中にこういう内容のものがありませんでした。

「神様、どうか僕の隣の男の子の右の手を早く直してあげてください」とありました。先生はそれを読んだ時、もう我慢できなくなって、入学してからあの体育の時間のことを話しました。その先生の話で右手の不自由な男の子のお母さんは、息子が皆に迷惑を掛けているのではないかと小さくなって、教室の外の廊下で中の様子を聞いていたのですが、突然中に入ってきて、弟の横に座り「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と絶叫したということです。

(以上、出典から要約し、授業用に編集しました)

3、参考資料2 生徒への働きかけポイント

展開1で話し終えてから

優しいという字は人に憂えると書くけれども、辛い経験があればあるほどその人は人に優しくなれる。この弟もそんな男の子だったように思います。でもそれ以上に、一番注目したいのはこの男のお母さんの姿です。「ありがとう」の項目をことあるごとに日記に書いていったその姿が、この男の子をここまで優しい子にしていっていったのではないのでしょうか。

展開2「ありがとう」項目39個記入する

感謝にまさる能力なし、と言われるほど感謝の心を持ち続けることは、大きな力を発揮するものです。また感謝を習慣化していくことが品性の向上につながります。一つの実践方法を紹介します。今日一日のありがとうと言える項目を挙げよう。その項目は39個でなければなりません。「ありがとう」ですから39です。

展開3 友達の項目を聞きながら、自分の項目を振り返る

書いた内容を以下のように分類する。

- 1、人から何かをもらったり、してもらったりしたこと
- 2、人の名前や自然の物。
- 3、生きていること。健康なこと。気づかせてくれたこと
- 4、嫌なこと。腹の立つこと（困難や災難）

毎日の生活の中では、うれしいことや楽しいことばかりではありません。嫌なことや腹の立つこともあります。そのことも思い出して、「ありがとう」と言ってみてはどうでしょうか。実は数年前の卒業生の中に、Oさんという女子生徒がこんなことを書いてくれました。

- ・嫌な思いをさせてくれてありがとう
- ・刺激してくれてありがとう
- ・厳しくしてくれてありがとう
- ・冷たい目で見てくれてありがとう
- ・泣き叫んでくれてありがとう

そしてその感想には、

「すべてが『ありがとう』につながり得ることが分かったから、もっともっと前向きに、明るく生活できる気がしました。そう思うと、またこれも明るくなれました」と、書いてくれました。

最後の嫌なこと、腹の立つことまでありがとうと言えるようになるといいですね。でもそうならなくても、一日に一度、寝る前に一日の感謝の項目を挙げてみましょう。そうすることによって感謝が習慣づけられ、次第に心豊かな人生になっていくのではないのでしょうか。

感謝の3つのレベル

- 1、誰かに何かをしてもらった時に感謝する
- 2、当たり前と思っている事柄に感謝する
- 3、自分に降りかかる困難や災難、すべてに感謝する